

# 令和7年度 南アルプス市立八田小学校 自己評価書

## (教職員評価) 結果

### セクション1：全体概況

令和7年度の教職員アンケート結果では、全16項目中15項目において肯定率（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）が90%を超える高い水準を維持している。特に「いじめへの組織的対応（問4）」や「保護者との情報共有（問11）」などは、昨年度に引き続き100%の肯定率を達成しており、学校運営の基盤となる事項が強固に定着していることが示された。主要な変化として、前年度に課題（肯定率86.4%）とされていた「Q-U等の活用（問3）」が95.7%（+9.3ポイント）へと改善した。

一方で、「地域の教育力の活用（問12）」や「小中一貫の交流（問10）」については数値が微減しており、一貫教育における「つながり」の推進が今後の継続的な課題である。

### セクション2：前年度比較一覧表

項目名（問1～16）	R7肯定率	R6肯定率	比較	判定
(1) 児童生徒一人ひとりが目標を持って学校生活を送れるよう指導を行っていますか。	100%	100.00%	0	維持
(2) 児童生徒は楽しく学校生活を送っていると思いますか。	100%	100.00%	0	維持
(3) Q-U、アドジャン、学級力アンケートなどを活用して、児童生徒理解、人間関係作りに努めていますか。	95.70%	86.40%	9.3	維持
(4) いじめなどの諸問題に対して、お互いに情報を共有し、組織的に取り組んでいますか。	100%	100.00%	0	維持
(5) 「小中スタンダード」で育成をめざす「伝え合う力」を伸ばすために、教育活動・教科指導の改善に努めていますか。	95.70%	95.50%	0.2	維持
(6) 学習のアイテムなどを活用して、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に努めていますか。	95.70%	100.00%	-4.3	維持
(7) 計画的な家庭学習の手立てを講じ、指導していますか。	87.00%	95.50%	-8.5	維持
(8) 小笠原流礼法や立腰教育を意識した、心と体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めていますか。	95.70%	100.00%	-4.3	維持
(9) 小中一貫で取り組んでいる「下駄箱の整頓」、「先言後礼のあいさつ」を自ら行う児童生徒の育成に努めていますか。	87.00%	90.90%	-3.9	維持
(10) 小中の児童生徒の交流や職員の交流を積極的に行っていると思いますか。	87.00%	90.90%	-3.9	維持
(11) 保護者（家庭）と情報を共有し、指導に取り組んでいますか。	100%	100.00%	0	維持
(12) 地域の人材や施設を利用するなどの、地域の教育力を生かした教育活動を行っていますか。	82.60%	86.40%	-3.8	維持
(13) 各種たよりやHP等により行事や授業などの情報提供を積極的に公開することを通して、「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。	100%	100.00%	0	維持
(14) 外部関係機関と連携し、児童生徒の健全育成に努めていると思いますか。	100%	100.00%	0	維持
(15) ICT機器等の活用に当たり、情報モラルやリテラシーに関する指導を行っていますか。	100%	95.50%	4.5	維持
(16) 防災・防犯・交通安全に対する意識を高めるための指導を計画的に行っていますか。	100%	100.00%	0	維持

## セクション3：重点分析

### 1. 維持・向上している項目

- 組織的対応と外部連携（問4, 11, 13, 14, 16）  
肯定率100%を維持。いじめ対応、安全指導、家庭および外部機関との連携について、職員間の共通理解が極めて高いレベルで図られている。
- 児童生徒理解（問3）  
前年度の86.4%から95.7%へ向上。Q-Uやスリンプルプログラム等のツール活用が定着し、組織的な児童生徒理解が進んだ成果といえる。

### 2. 課題となった項目

- 家庭学習の手立て（問7）  
肯定率87.0%（前年比-8.5）。自由記述では負担軽減への肯定的意見がある一方、具体的な指導の「手立て」に関しては、再考の余地がある。
- 地域の教育力の活用（問12）  
肯定率82.6%と全項目中で最も低く、前年度（86.4%）からも微減した。地域人材の計画的な活用と、その意義の再確認が求められる。

## セクション4：自由記述からの考察

- 組織運営・教員の質向上  
「主体的で深い学び」の実現には教員の意識変革が不可欠であり、校内OJT等を通じた「学び続ける教員集団」の維持が必要である。
- 生徒指導・一貫教育  
挨拶や返事、小中一貫で取り組む「先言後礼」等の基本的な生活習慣について、学校全体でさらに推進すべきという意見がある。小笠原流礼法の授業の活用など、継続した指導を行うことが求められている。
- 教員の働き方・支援体制  
「宿題の丸付け支援」などの具体的な負担軽減策は、教員から非常に高く評価されている。事務作業の軽減が授業改善への意欲に直結していることが推察される。

## 令和7年度 児童アンケート

### セクション1：全体概況

全体として、児童の肯定率は高い水準を維持しており、学校生活に対する満足度は極めて高い。「学校が楽しい（問1：92.8%）」、「時間を守る（問2：96.0%）」、「決まりを守る（問3：96.8%）」といった生活の基盤となる項目は、昨年度を上回る安定感を見せている。また、睡眠時間の確保（問17：86.6%）にも改善の兆しがある。一方で、「授業中の姿勢（問4：69.7%）」は10ポイント近い下落傾向にあり、今後の継続的な課題である。

### セクション2：前年度比較一覧表

項目	R7 肯定率	R6 肯定率	比較	判定
1 あなたは、学校が楽しいと思いますか。	92.80%	92.00%	+0.8	維持
2 あなたは、学校で時間を守っていますか。	96.00%	93.80%	+2.2	維持
3 あなたは、決まり（交通ルールも）や約束を守っていますか。	96.80%	94.20%	+2.6	維持
4 あなたは、よい姿勢で授業をうけていますか。	69.70%	79.30%	-9.6	維持
5 あなたは、くつやトイレのスリッパをすすんでそろえていますか。	85.20%	88.00%	-2.8	維持
6 あなたは、先生や友だちの話をしっかりきいていますか。	95.70%	95.70%	0	維持
7 あなたは、友だちの気持ちを考えて、行動していますか。	95.30%	96.00%	-0.7	維持
8 あなたは、給食当番や掃除をしっかりとやっていますか。	96.80%	97.50%	-0.7	維持
9 あなたには、相談できる父や母、友だち、そのほかの人などがいますか。	94.60%	93.80%	+0.8	維持
10 あなたには、相談できる先生がいますか。	89.50%	88.80%	+0.7	維持
11 あなたは、授業がわかりやすいと思いますか。	89.90%	93.10%	-3.2	維持
12 あなたは、授業中、発表していますか。	74.70%	78.30%	-3.6	維持
13 あなたは、家庭学習（宿題）をしていますか。	90.60%	63.00%	+27.6	向上*
14 あなたは、家で読書をしていますか。	66.10%	62.70%	+3.4	維持
15 あなたは、提出するものを、きげんを守って出していますか。	91.30%	90.90%	+0.4	維持
16 あなたは、きそく正しい生活ができていますか。	80.90%	—	—	—
17 すいみん時間は1日平均8時間以上ですか。	86.60%	79.70%	+6.9	維持
18 あなたは、あいさつを自分からしていますか。	84.10%	85.50%	-1.4	維持
19 あなたは、家の人に学校のことを話していますか。	81.60%	84.40%	-2.8	維持
20 自分のスマホやタブレットを持っていますか。	80.50%	74.30%	+6.2	維持
20-2 家の人と使い方のルールを決めていますか。	67.70%	75.60%	-7.9	維持
20-3 あなたは、家での約束を守って使っていますか。	87.40%	96.10%	-8.7	維持

## セクション3：重点分析

### 1. 成果：生活リズムの安定と信頼関係の継続

「睡眠時間（問17）」が昨年度から6.9ポイント向上し、生活リズムの改善が見られる。また、「先生への相談（問10：89.5%）」も微増しており、児童が困った際に大人を頼れる心理的安全性が確保されている点は、本校の教育活動の成果である。

### 2. 課題：学習に向かう態度の再確認

「授業中の姿勢（問4）」の肯定率が69.7%まで低下している。「規範意識（問3）」が高い一方で、実際の授業場面での集中力や持続力が低下している可能性が考えられる。学年が上がるにつれて「B：どちらかといえば」が増える傾向にあり、全校体制での学習規律の再確認と子供主体の授業づくりが必要である。

### 3. 特筆事項：家庭学習について

今回、肯定率が大幅に向上（+27.6pt）したが、これは設問文に「（宿題）」という言葉が明記したことによる。実態としては、宿題を含めれば9割以上の児童が机に向かっていることが確認された。

## セクション4：自由記述からの考察

- 人間関係の深化と葛藤（生徒指導へのヒント）

「いじめをなくしたい」「喧嘩をしたくない」という記述は、児童が人間関係に高い関心を持ち、かつ敏感であることを示している。肯定率（問1・7）が9割を超えているからといって個別のトラブルがないわけではなく、「不安」をすくい取る、よりきめ細やかな観察と対応が求められる。

- 主体的な学びへの期待（授業改善へのヒント）

「話し合いの授業を増やしてほしい」という一意見があり、授業中の姿勢（問4）の課題に対する解決策の一つとなり得る。児童が発言・活動したくなるような授業デザインへの転換をさらに推進することが、学習態度の改善につながるだろう。

## 令和7年度 保護者アンケート

### セクション1：全体概況

全体として、学校の学習指導や地域連携への評価は昨年度を上回る高い水準にある。特に「わかりやすい授業（問5：97.0%）」や「発表機会（問6：98.3%）」の肯定率は極めて高く、学校の教育方針が保護者に高く評価されている。

### セクション2：前年度比較一覧表

項目	R7肯定率	R6肯定率	比較	判定
1 お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか。	93.90%	94.80%	-0.9	維持
2 学校は、いじめの未然防止や間違った行動などに対して、指導していると思いますか。	92.60%	93.90%	-1.3	維持
3 お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友だち・その他の人がいると思いますか。	89.10%	94.40%	-5.3	維持
4 学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。	90.40%	93.50%	-3.1	維持
5 学校は、わかりやすい授業を行っていると思いますか。	97.00%	93.10%	+3.9	維持
6 学校は、授業などの場面で、お子さんが考えを発表する機会を作っていると思いますか。	98.30%	90.50%	+7.8	維持
7 お子さんは、家庭学習（宿題）に取り組んでいますか。	88.70%	94.80%	-6.1	維持
8 お子さんは、ご家庭であいさつができていますか。	91.30%	94.40%	-3.1	維持
9 お子さんは、規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）ができていますか。	83.90%	—	—	—
10 学校は、小中一貫校として小学校と中学校が連携して教育活動を行っていると思いますか。	83.50%	88.50%	-5	維持
11 学校は、保護者と情報を共有し、指導にあたっていると思いますか。	89.60%	89.20%	+0.4	維持
12 学校は、地域の教材や地域の教育力を生かした教育活動を行っていると思いますか。	97.00%	91.80%	+5.2	維持
13 学校は、情報提供や行事の公開を通して「地域に開かれた学校」となるよう努めていると思いますか。	95.70%	95.20%	+0.5	維持
14 学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか。	92.20%	94.80%	-2.6	維持
15 学校は、防災・防犯・交通安全などの安全指導に努めていると思いますか。	95.70%	95.70%	0	維持
16 お子さんは自分のスマートフォン(携帯電話)やタブレットを持っていますか。	100.00%	94.40%	+5.6	維持
16-2-① お子さんとの使い方についてルールを決めていますか。	100.00%	94.00%	+6.0	維持
16-3-① お子さんは、ルールを守り、正しく使っていますか。	84.50%	93.60%	-9.1	維持

### セクション3：重点分析

#### 1. 成果：学習指導と開かれた学校づくりへの高評価（問5、問6、問12）

授業の質や発表機会、地域教育力の活用に対する肯定率が大幅に向上し、いずれも9割台後半に達している。これは学校が進めてきた授業改善と地域連携の取り組みが保護者に確かな信頼として定着していることを示している。

#### 2. 課題：家庭生活の基盤とメディアリテラシー（問9、問16-3）

規則正しい生活（問9）が「課題」判定となったことに加え、スマートフォンのルール遵守（問16-3）も下落傾向（-9.1）にある。児童アンケートでの「授業中の姿勢」の低下とも連動しており、睡眠不足やメディアの使い方が学校生活に影響を及ぼしている可能性がある。

### セクション4：自由記述からの考察

- 学校の情報発信と教職員への信頼

教職員の熱心な指導に対する感謝の声が多く、学校への基本的な信頼感は厚い。教職員アンケート（問11：保護者との共有100%）の結果が反映されている。一方、小中一貫校としてのさらなる連携強化や、情報の早期共有を求める声もある。

- 環境整備と安全への意識

施設の老朽化対策や通学路の安全確保は、引き続き保護者の高い関心事である。これらは行政や地域と連携し、継続的に改善を図る必要がある。

- メディア利用の家庭教育支援

アンケート結果に現れた「スマホ等のルール遵守」の低下を受け、家庭でのスマホ利用の在り方について、学校から具体的な指針や好事例を共有するなどの支援が求められている。

## 令和7年度 学校評価総括と次年度への改善プラン

### 1. 現状分析：強みと弱みの明確化

#### 【強み】

- **心理的安全性の確立**  
「学校が楽しい(92.8%)」、「先生に相談できる(89.5%)」という高い肯定率は、本校が児童生徒にとって安全な居場所であることを示している。
- **生活基盤の安定**  
睡眠時間の確保(+6.9)の改善や、規範意識(時間を守る:96.0%)の高さは、家庭との連携が機能している成果である。
- **小中一貫教育の素地**  
9年間を見据えた生活指導の統一により、児童生徒の生活リズムが学年を超えて安定している。

#### 【弱み：課題】

- **学習規律の形骸化**  
授業姿勢の肯定率が69.7%(昨年度比-9.6)と下落。「静かに座る(規則)」はできているが、「主体的に参加する(姿勢)」が伴っていない。
- **受動的な学びの慢性化**  
自由記述において「話し合いの授業を増やしてほしい」との要望が一意見ある。教職員の説明が多い授業に対する意欲減退を招いている可能性がある。
- **ICT活用のルール形骸化**  
家庭でのタブレット利用ルール遵守率が低下しており、家庭学習におけるデジタル活用のあり方が課題である。

### 2. 令和8年度に向けた改善プラン

「安心して過ごせる学校」から「自ら考え、対話する、知的に躍動する学校」への深化

「つなぐ」プロジェクトをさらに推進し、弱みを強みに変えるための3つの施策を提案する。

#### (1) 「学習をつなぐ」プロジェクト

- ①「児童同士の対話・協働」を含めた授業デザインを全校で推進する。児童の「話し合いをしたい」という意欲を授業で活かし、授業中の姿勢の改善に繋げる。
- ②中学校教員による小学校への乗り入れ授業を、「中学校授業の体験」としてだけでなく、教科の面白さを伝える「専門性の接続」として実施する。

#### (2) 「児童生徒をつなぐ」プロジェクト

- ①「挨拶・靴そろえ」を教員が指導するのではなく、児童会・生徒会が中心となって「学校の誇り」として捉え活動を推進する。
- ②小中一貫校の特性を活かし、中学生が小学生のお手本となる機会を位置づけ、憧れの連鎖を作る。

#### (3) 「教職員をつなぐ」プロジェクト

- ①校務のDX推進による「子供と向き合う時間」を生み出す。また、連絡事項のデジタル化により捻出した時間を日々の「教材研究」に充て、授業の質的向上を図る。
- ②教職員の心身の健康が教育の質を左右することを共通認識とし、定時退勤日の一層の推進と効率的な校務分掌を推進する。

---

### 3. 結びに代えて

令和7年度の結果は、本校が「安心して学べる場」として確かな地位を築いたことを示している。令和8年度は、この安心感を土台としつつ、子供たちが授業や学校生活について「言われてやる（受動）」から「自ら動く（能動）」へとフェーズを進めるべきである。

「Children first」の理念のもと、教職員・保護者・地域がワンチームとなり、子供たちの「自律」を支援し続けることで、ふるさとの未来を創造する児童生徒の育成をさらに加速させていきたい。